

浦佐・龍谷寺での奉納公演番組解説

1. 連吟～「れんぎん」は、能楽の歌唱部分を抜粋して、役割を決めて謡うものです。

「吉野天人」～シテ・田中裕子 ワキ・角田美佐子 ワキツレ・阿部美幸
花見の名所、「吉野山」に天人が降り下って舞を舞う情景を謡います。

2. 仕舞

① 「猩々」・山本真理恵

中国のお話ですが、海中に住む酒好きの妖怪が陸に上がってきて、村人から酒を振舞われると、その村は豊かになります。高砂と並んでお祝いの曲です。

② 「野宮」・長谷川次八

源氏物語典拠。六条御息所（天皇の后）が昔を偲び、京都・嵯峨野の野宮に詣で昔を偲びます。鳥居を跨ぐ姿が見せどころです。

③ 「放下僧小歌」・森 庸一

全国行脚の僧侶が、当時の流行り歌にあわせて、舞を舞います。物まね的な要素を舞の中に取り入れています。

④ 「屋島」・小林宏三

源平時代の武将の英雄が、瀬戸内海の屋島で敵船に乗り込み戦います。扇を盾にしたり、太刀にしたりと使い分けします。

⑤ 「羽衣クセ」・山口健次

三保の松原に舞い降りた天人が、置き忘れた衣を取り戻すために舞を舞います。富士山を背景とした、優雅な天空での舞を表現します。

⑥ 「芭蕉キリ」・堤美代子

冬を控えて枯れ行く芭蕉の精が、幽玄の世界を表現します。全身で、芭蕉の葉が風にそよぐ様を優雅に表現します。

⑦ 「巻絹」・三野仁子

神様が憑依した巫女が、おほらいをしながら、人々を慰撫する舞を舞いますが、やがて神様は去ってゆき、巫女は現実に戻ります

⑧ 「楊貴妃クセ」・初田敏美

玄宗皇帝の寵愛を受けた楊貴妃が死後の世界で、皇帝の勅使に会って、かつての宮中での暮らしぶり、皇帝と愛し合った日々を述懐します。

⑨ 「藤戸」・薬師堂隆子

軍の指揮官が部隊を島に渡すために漁師に浅瀬の場所を教えてもらった後、秘密を守るため漁師を殺し、漁師の恨みの亡霊が殺された場面を再現します。

⑩ 「融」・金山武志

貴族の源融が、遊興の趣で作った、陸奥・塩釜の塩田を模して造った自宅の京都の庭園で、かつての遊びを懐かしく思い出しながら舞い狂います。

3. 神舞

「高砂」シテ・平戸仁英 笛・龍田啓子

笛のメロディーに合わせて、爽やかにお祝いの舞を舞います。

「高砂」は、200曲余りの能の曲の中で最も大切な祝言曲です。

(休憩。質疑応答)

4. 連吟

「三井寺」～七丁表ワキよりクセ止めまで

シテ・高野孝雄 ワキ・北島大靖

行方不明になった幼子を探し求めている母親が、三井寺の鐘楼に上って我が子の安泰を祈ります、その後、曲趣が変わって鐘尽くしの歌が披露されますが、その中には艶っぽい詞章も含まれています。

5. 仕舞

⑪ 「車僧」・中尾操

中国大陸から飛来した天狗が日本の僧侶と対決しますが、いろいろと挑戦し、仕掛けて行きますが、勝てないので、終には退散して行きます。

⑫ 「自然居士クセ」・尾崎純子

辻説法をする流浪の僧侶が、古代中国で、船を発明したときのエピソードを舞の形で説明します。

⑬ 「女郎花」・加藤千恵子

恋人を死なせてしまった男が自殺しますが、死後、地獄で現世のことを思い出して、苦しみながら狂い舞いますがやがて成仏して安寧の境地に至ります。

⑭ 「砧前」・松井優子

長らく訴訟のため都に出張していた夫が、なかなか帰ってこないことを、恋しがったり、恨んだいしながらも、やがてで死んでしまいます。

⑮ 「野守」・龍田啓子

奈良・春日垂神社の森番である神様が、大きな鏡で、人の罪状を写し出しては、罪人を暴き出し、罰してゆきます。銀色の扇を鏡として扱います。

以 上